

「人文学」を学ぶことによって 「世界」を変えていく。

日本文学
英文学の3コース!
歴史学

人の歴史を知り人間存在の根源を問い、そこからより良い社会を導くヒントを見つけ出す『人文女子』を育ててきた日本女子大学文学部。より高度な学問研究と批判精神をもち、新しい文化の創造に貢献している文学部教員の先端研究に触れてみませんか。

2018

8月9日(木)

日本女子大学 目白キャンパス 新泉山館

プログラム 12:15 START

- ✳ 12:15～12:30 挨拶・概要説明
- ✳ 12:30～14:00 講義①
- ✳ 14:10～15:40 講義②
- ✳ 15:50～16:20 学科施設見学

参加お申し込み ★参加無料

定員：各学科 50名 先着順

定員になり次第締め切りとさせていただきます。
裏面申込用紙に記入の上FAXでご送付ください。

締切 7月20日(金)18:00

FAX 03-3378-7313

【日本文学】

万葉和歌の詠み方 ～大伴家持を中心に～

講義①

大伴家持の登場

大伴家持は、万葉集の後期に登場する歌人で、同集に最も多くの歌を残しています。後期の万葉集には似通った歌が多いとされ、家持の歌も同時代の他の歌と確かに類似していると感じるかもしれません。しかし同じ主題で詠んだ歌をよく比べると、家持が当時の他の人たちにはない感性の持ち主であることが見えてきます。同時代に詠まれた歌と実際に比較をしながら、家持の特異な感性についてお話しします。

講義②

大伴家持と七夕歌

七夕の日といえば、織姫と彦星が1年に1度会うことができる日として日本でも広く知られていますが、中国を起源とする七夕伝説では織女が男(彦星)に会いに行くと言えられ、家持の七夕歌でも織女が天の川を渡る様子が詠まれています。しかし万葉集の七夕歌の多くは中国から伝わった伝説とは違い、男が織女のもとを訪れる歌がほとんどです。この違いは何なのか、七夕伝説の中国と日本の違いや当時の歌の詠み方とともに解説します。

日本文学科

教授
田中 大士

Profile

『万葉集』の伝本、伝来についての研究。『万葉集』の表記や歌々が、後世の人々にどのように受け止められ、伝えられてきたかを調べている。

【言語・英語研究】

会話分析から探る コミュニケーション促進のヒント

講義①

日常会話との比較から分かる、 授業での会話の特徴とは

私たちの社会生活の大部分は、人と人の会話を通して成立しています。その会話がどのような構造を持ち、どのように成立しているのかを明らかにしようとする、会話分析という学問があります。この講義では、会話分析の手法を用いて教室での先生と生徒の会話、他の形態の会話とどう違うのかについて、さまざまな場面の会話を例に挙げながら解説していきます。

講義②

「教室」での英語授業を円滑に 進めるためには

家族や友人と会話をしているときに「え？」と聞き返すと、聞き取れなかったのだと理解され、同じことを繰り返してもらえます。一方で、「教室」の中で先生が生徒に「え？」と聞き返すと、生徒は自信を失って発言を続けてくれなくなることが多々あります。それはなぜなのか、授業会話のデータを実際に分析しながら、その仕組みを解説します。どうすれば「教室」という枠組みを越え、生徒の自由な発言を促せるか、その可能性について考えたいと思います。

英文学科

准教授
早野 薫

Profile

会話分析の方法を用いて、会話の構造、コンテキストと言語使用の関わり等を研究。英語学習者のコミュニケーション能力向上に向けての応用を目指す。

【歴史学】

近代日本の蚕糸業

講義①

生糸と器械製糸場

富岡製糸場のような製糸工場の設立は、富岡のある群馬県ではなく長野県諏訪地方で盛んとなりました。なぜでしょうか。横浜開港以降、生糸輸出は外貨を稼ぐ、日本の「近代化」に貢献しましたが、その基盤となった江戸期以来の絹業発展の様相や地域性、および開港後の生糸世界市場の性格について概説します。

講義②

繭と近代の農家

日本の生糸生産は国内の養蚕農家が作った繭を原料としました。飛躍的に増える生糸生産をまかなった繭生産の拡大はどのようにして可能になったか、養蚕農家の在り方は、日本の「近代化」とどのような関係にあったのか、明治以降の農家・農村において「近代化」によって何が変わったのかを、養蚕を手掛かりに考えます。

史学科

教授
井川 克彦

Profile

研究テーマは近代史、特に「近代日本経済史」。授業では、自分が興味を持っているテーマを見つけ、史料や研究書を読みこなすことを目指す。